

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	米山 乃生子	教員区分	一般教員

教科書	なし(毎回プリントを配布します。)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	不明な箇所をそのままにせず質問をし、早期に理解できるようにすること。

科目の目標	歯科衛生士として必要な自然科学を学ぶ。
授業概要	生物・化学・数学(統計)

日程

回 数	授業内容
1	地球環境とヒト①「自然環境」
2	地球環境とヒト②「ヒトと取り巻く様々な環境」
3	物質とは何か①「物質の構成と種類」
4	物質とは何か②「酸化還元、中和反応など」
5	栄養とは何か①「ヒトを支える物質」
6	栄養とは何か②「嗜好品」
7	細胞①「構造と機能」
8	細胞②「増殖と死」
9	微生物①「ヒトを支える微生物(常在菌叢)」
10	微生物②「病原微生物とヒト」
11	統計からみる日本①「人口動態統計」
12	統計からみる日本②「歯科実態調査」
13	最新医療①不妊治療とヒトの生殖
14	最新医療②再生医療と微生物
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	医療人間科学 I	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	大野 宏樹	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生士のための歯科用小辞典 基礎編 改訂第2版」(クインテッセンス出版) 「歯科衛生士のための歯科用小辞典 臨床編 改訂第2版」(クインテッセンス出版)
参考書	授業プリント、および教科書を適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	歯科衛生士を目指す学生として、正しい国語表現が出来る事については、常に考えること。

科目の目標	自分の言葉で考察を加えた実習記録の書き方、歯科用語を使用した術式記録の記載、ならびに読解力の習得に留意を置く。
授業概要	歯科用語に慣れ、実習内容等を理解した上で、自分の言葉で文章表現ができるようになる。

日程

回 数	授業内容
1	歯科用語 基礎編①
2	歯科用語 基礎編②
3	歯科用語 臨床編①
4	歯科用語 臨床編②
5	実習記録の記載 術式・診療補助・役割・留意点①
6	実習記録の記載 術式・診療補助・役割・留意点②
7	実習記録の記載 考察①
8	実習記録の記載 考察②
9	術式記録の読解①
10	術式記録の読解②
11	術式記録の読解③
12	患者の主訴①
13	患者の主訴②
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	解剖学（組織発生学を含む）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	ただの暗記にとどまらず、より理解を深めるために自主的・積極的に授業に臨んで下さい。

科目の目標	今後学んでいく専門知識の基盤となる、人体の構造と機能に関する知識を身につける。
授業概要	人体の構造と機能を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	人体の構造と機能を学ぶにあたって／細胞と組織
2	発生
3	骨格系 概説
4	骨格系 各部
5	筋と運動 概説
6	筋と運動 各部
7	筋と運動 運動
8	循環① 概説と心臓
9	循環② 動脈と静脈
10	循環③ リンパ系・循環のまとめ
11	神経系① 概説と神経系の構成
12	神経系② 中枢神経
13	神経系③ 末梢神経
14	伝導路・神経系のまとめ④
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	人の基本的構造や機能を理解し、臨床に必要な生理学の知識を習得する。
授業概要	授業を通して国家試験に頻出する知識を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、生理学とは、恒常性
2	体温
3	血液（1）
4	血液（2）
5	排泄（1）
6	排泄（2）
7	内分泌（1）
8	内分泌（2）
9	生殖
10	感覚
11	呼吸
12	循環
13	消化と吸収（1）
14	消化と吸収（2）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	口腔解剖学 (口腔組織発生学を含む)	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	中尾 正	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版社)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	教科書を中心に予習、復習を行い、国家試験合格のための基礎力をつけること。

科目の目標	歯科衛生士にとって必要な口腔解剖学・口腔組織発生学の知識を習得する。
授業概要	歯科衛生士にとって重要な点ポイントを中心に講義形式で解説する。

日程

回 数	授業内容
1	骨学 1 : 頭蓋骨 (P18~34)
2	骨学 2 : 下顎骨、顎関節 (P30~34, 42~44)
3	筋学 : 表情筋、咀嚼筋、舌骨上筋 (P34~42)
4	脈管学 : 動脈、静脈、リンパ系 (P45~56)
5	神経学 1 : 神経の分類、自律神経 (P56~67)
6	神経学 2 : 脳神経 12 対 (P56~67)
7	口腔内部の解剖 (P10~18)
8	鰓弓と口腔の発生 (P2~9)
9	歯の発生学 1 : 先行歯の発生 (P208~213)
10	歯の発生学 2 : 代生歯の発生 (P213~217)
11	歯の組織学 1 : 歯の構造 (P218~239)
12	歯の組織学 2 : 歯周組織の構造 (P236~249)
13	歯の組織学 3 : 歯肉 (P246~251)
14	総復習、試験対策練習問題
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯牙解剖学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	大塚 紗香	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	講師作成による配布資料。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業に必要な物品を持参する。毎回手鏡を持参すること。

科目の目標	歯科医療の基本となる歯牙の特徴を観察することにより習得する。
授業概要	歯科衛生士の業務の基盤となる口腔および歯牙に関して講義や演習で総合的に学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	歯牙の客観的観察・形態・種類・機能。歯の表示法・歯式
2	永久歯の形態の観察と機能（前歯）
3	永久歯の形態の観察と機能（小白歯）
4	永久歯の形態の観察と機能（大臼歯）
5	乳歯の形態の観察と機能
6	歯列と咬合・特色のある歯の形態についての総復習
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	口腔生理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	1 6
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	和氣 創	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	口腔顎面領域に現れる生命現象のメカニズムを学び、医療現場で遭遇する様々な病態に対する病因の理解とその解決力を養う。
授業概要	顎顔面口腔領域の感覚機能や、経口摂取、発声、嘔吐などの生理的メカニズムを学習する。

日程

回 数	授業内容
1	歯と口腔の感覚①
2	歯と口腔の感覚②
3	味覚と嗅覚
4	咬合と咀嚼・吸啜
5	嚥下と嘔吐・発声
6	唾液
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	口腔衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	三森 順子・美馬 寿恵	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み 1 保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
成績評価	小テスト、提出物、定期試験を総合して評価する。
留意事項	基礎となり実習へつながっていくので休まず出席し、よく予習復習すること。

科目の目標	歯と口腔の健康と予防に関する基礎知識について習得する。
授業概要	口腔清掃指導に必要な知識と歯科疾患予防を学習する。

日程

回 数	授業内容	
1	口腔清掃の意義と目的、口腔清掃法①	(三森)
2	口腔清掃法②	(三森)
3	口腔清掃法③	(三森)
4	口腔清掃法④	(三森)
5	口腔清掃法⑤	(三森)
6	口腔清掃法⑥	(三森)
7	歯磨剤と洗口剤	(三森)
8	歯垢染色剤	(三森)
9	歯・口腔の健康	(美馬)
10	歯・口腔の付着物・沈着物	(美馬)
11	フッ化物によるう蝕予防①	(美馬)
12	フッ化物によるう蝕予防②	(美馬)
13	フッ化物によるう蝕予防③	(美馬)
14	フッ化物によるう蝕予防④	(美馬)
15	定期試験	(三森・美馬)
16	定期試験の解答と解説	(三森・美馬)

科 目	歯科衛生士概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	1 6
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	小林 明子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	講師作成による配布物
成績評価	提出物、定期試験にて評価する。
留意事項	・休まず出席し、歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」の予習をして授業に臨むこと。 ・レポートの提出があるので、期日を守り提出すること。

科目の目標	歯科医療の役割、歯科衛生士像や使命を明確化し、歯科医療の基礎を学ぶ目的を理解する 医療の中で必要とされる歯科衛生士のミッションを理解する。
授業概要	歯科衛生士の役割、理念、歯科臨床における法的業務について、を学習資料（歯科衛生教本を中心として）総合的に学ぶ。チーム医療、多職種との関わりを明確化する。

日程

回 数	授業内容
1	健康の概念 歯科医療にかかわる対象者 歯科衛生士について 歯科衛生士の歴史的背景と役割の変化
2	歯科衛生士法 歯科衛生士業務（業務の独占、名称の独占）について 医療倫理について（インフォームコンセント、など）
3	予防の概念 歯科衛生活動に必要な知識
4	歯科衛生とリスク管理 医療安全、感染予防対策
5	歯科衛生過程について。（演習含む）
6	チーム医療、多職種との連携について、 これからの医療の中で必要とされる歯科衛生士について
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	美馬 寿恵	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	小テスト、提出物、定期試験を総合して判断する。
留意事項	基礎知識となるのでよく復習すること。休まず出席し、積極的に講義に臨むこと。

科目の目標	正常な歯、歯周組織と口腔の構造について理解できる。 口腔内の情報収集の方法について理解できる。
授業概要	専門基礎分野の知識と関連づけながら口腔の構造、う蝕、歯周病の概要を知り、歯科予防処置について学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	歯科予防処置の定義と法的な位置づけについて 口腔の基礎知識①
2	口腔の基礎知識②
3	口腔の基礎知識③
4	口腔内の情報収集①
5	口腔内の情報収集②
6	口腔内の情報収集③
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科保健指導Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	三森 順子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	小テスト、提出物、定期試験を総合して評価する。
留意事項	授業をしっかりと聞き、予習復習を行い、次の授業に役立てること。休まずに出席すること。

科目の目標	歯科保健指導とは何かを理解し、歯・口腔の健康の維持、増進するために必要な基礎知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な基礎知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、歯科保健指導の概要
2	歯科保健指導のための基礎知識①
3	歯科保健指導のための基礎知識②
4	歯科保健指導のための基礎知識③
5	歯科保健指導のための基礎知識④
6	歯科保健指導のための基礎知識⑤
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	佐々木 典子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	忘れ物をしないように心掛け、予習復習をしっかり行い授業に臨むこと。

科目の目標	歯科医療を安全かつ円滑に行うために、必要となる歯科診療補助の基本的な知識を習得する。
授業概要	歯科医療を安全かつ円滑に行うために必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	歯科診療における基礎知識①
2	歯科診療における基礎知識②
3	歯科診療における基礎知識③
4	歯科診療における基礎知識④
5	歯科診療における基礎知識⑤
6	歯科診療における基礎知識⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	佐々木 典子	教員区分	実務教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	身だしなみを整え、忘れ物が無いよう臨むこと。予習として教本に目を通し、読めない漢字や文字が無いよう心掛けること。時間を有効に使い、チームワークを意識しながら協力して授業に臨むこと。また、欠席しないよう体調管理に気を配ること。

科目の目標	歯科診療補助に関する基本知識を学び、実際の歯科診療補助に必要な技術及び態度を習得する。
授業概要	マネキンと模型による実技実習を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	実習オリエンテーション①
2	実習オリエンテーション②
3	歯科診療における基礎知識①
4	歯科診療における基礎知識②
5	歯科診療における基礎知識③
6	歯科診療における基礎知識④
7	歯科診療における基礎知識⑤
8	歯科材料の取り扱い①
9	歯科材料の取り扱い②
10	歯科材料の取り扱い③
11	歯科材料の取り扱い④
12	歯科材料の取り扱い⑤
13	歯科材料の取り扱い⑥

1 4	実技試験
1 5	実技試験の解答と解説
1 6	総復習

科 目	健康社会学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	加藤 美生・米山 及生子	教員区分	一般教員

教科書	特になし。
参考書	特になし。
成績評価	定期試験・小テスト・プレゼンテーションを総合して評価する。
留意事項	提出物は期限を守ること、正当な理由なく遅刻しないこと。

科目の目標	健康や病気と社会とのかかわりについて基礎的理解を深めるのと同時に、医療者として市民が健康や病気への積極的に対峙する力を育むのにどのように支援するのかについて理解する。
授業概要	歯科衛生士の役割や医療特有のコミュニケーションについて概説する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、健康とは何か
2	社会によりもたらされる健康と病気
3	健康づくりのためのヘルスコミュニケーション
4	健康づくりに必要なリーダーシップ
5	ライフステージ別の健康課題
6	Day 1～5 の小テスト
7	健康なまちづくり
8	健康な学校づくり
9	健康な職場づくり
10	健康な病院づくり
11	健康な家庭づくり
12	Day 6～11 の小テスト
13	医療とメディア
14	リスクコミュニケーション
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
教員名	大塚 純香	実施学期	2学期
		教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	講師作成の配布資料
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	疾病の原因・発症機序・進展および転帰を理解し、疾病の予防や治療の基礎となる知見を総合的に習得する。
授業概要	臨床で遭遇する全身疾患を講義や学習映像資料を通して学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第1章 病理学序論と病因論 & 第2章 遺伝性疾患と奇形
2	第3章 循環障害 および 脳血管疾患
3	第3章 循環障害 および 脳血管疾患
4	第5章 増殖と修復
5	第6章 炎症と免疫応答異常
6	第7章 腫瘍 COPD
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	分野区分	専門基礎
	講義又は実習の区分	講義
	履修区分	必修
	単位数	2
	時間数	32
	履修年次	1学年
	実施学期	2学期
教員名	田中 隆博	教員区分
		一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	講師作成の配布資料
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	口腔疾患の原因・発症機序・進展および転帰を理解し、疾病の予防や治療の基礎となる知識を総合的に習得する。
授業概要	実際の歯科臨床で遭遇する口腔疾患を講義や学習映像資料を通して学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	歯の発育の異常【II-1章】
2	歯の損傷 (Tooth Wear)、歯の着色・付着物【II-2章】
3	う蝕①【II-3章】
4	う蝕②、歯の硬組織疾患まとめ【II-1~3章】
5	炎症総論【I-6章】、象牙質・歯髓複合体の病態（歯髓炎）【II-4章】
6	根尖部歯周組織の病変【II-5章】
7	辺縁部歯周組織の病変① 歯肉炎・歯周炎【II-5章】
8	辺縁部歯周組織の病変② 咬合性外傷、特殊な歯周炎【II-5章】
9	口腔粘膜の病変【II-6章】、特異性炎【I-6章】
10	口腔領域の囊胞と腫瘍、口腔癌【II-7, 8章】
11	顎骨の病変【II-9章】
12	唾液腺と舌の病変【II-10章】
13	口腔領域の奇形と加齢変化【II-11, 12章】
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	微生物学（口腔微生物学）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	鈴木 敏彦	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」全国歯科衛生協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	「標準微生物学 第13版」(医学書院)
成績評価	定期試験・提出物を総合して評価する。
留意事項	予習・復習に努めること。

科目の目標	微生物（口腔微生物）とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態、生体の防御機構としての免疫、に関する基本的知識を修得する。
授業概要	パワーポイント、配布資料、ボード板書を用いて授業を進行する。さらに小テストによる確認、微生物検体の供覧、口腔細菌の培養や手指アルコール消毒の実習などにより理解を深める。

日程

回 数	授業内容
1	感染症の歴史、微生物の構造
2	微生物の増殖や生理
3	感染と感染経路
4	生体防御とワクチン
5	グラム陽性細菌による感染症
6	グラム陰性細菌による感染症
7	細胞内寄生細菌、抗酸菌による感染症
8	真菌による感染症
9	口腔内フローラ
10	口腔内の細菌感染症と関連疾患
11	顎顔面、口腔領域に関連するウイルス感染症
12	その他のウイルス感染症
13	滅菌と消毒、感染管理、微生物学演習（口腔細菌の培養、手指のアルコール消毒と培養）
14	化学療法の基礎知識、微生物学演習（口腔細菌の培養、手指のアルコール消毒と培養）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	生化学(栄養学)	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	和氣 創	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず授業に臨むこと。

科目の目標	生体の構成成分の代謝過程を理解し、口腔生化学およびう蝕、歯周病などの口腔疾患の生化学を学ぶ。栄養素の働きや代謝過程を理解し、適正な栄養摂取に関する知識を習得する。
授業概要	生体を構成する様々な物質の特徴や代謝過程を学び、その知識に基づいて口腔生化学の知識を習得する。栄養素の働きや意義を学び、食生活と健康との関わりを理解する。

日程

回 数	授業内容
1	生体の構成要素、三大栄養素の特徴
2	糖質、脂質の種類と代謝
3	アミノ酸、タンパク質の種類と代謝、DNAと遺伝子
4	ミネラルとビタミンの働きと欠乏症、栄養素の消化と吸収
5	生体の恒常性の維持
6	歯と歯周組織(結合組織)
7	歯と歯周組織(歯)
8	硬組織の生化学
9	唾液の生化学
10	プラークの生化学(う蝕)
11	プラークの生化学(歯周病)
12	栄養の基礎知識、食事摂取基準
13	栄養素の働きと意義
14	食生活と健康
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	分野区分	専門基礎
	講義又は実習の区分	講義
	履修区分	必修
	単位数	2
	時間数	32
	履修年次	1学年
	実施学期	2学期
教員名	熊澤 真理子	教員区分 一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業に教科書を必ず持ってくること。 遅刻せず、休まず出席すること。

科目の目標	地域保健・公衆衛生の基礎的な知識を習得する。 各ライフステージにおける法律や制度について知る。
授業概要	各ライフステージにおける法律や制度について、教科書に沿って学習する。

日程

回 数	授業内容
1	1章 総論 (I編) 9章 國際保健 (III編)
2	8章 災害時の歯科保健 (III編)
3	3章 人口 (I編)
4	4章 健康と環境
5	5章 感染症
6	6章 食品と健康
7	1章 地域保健と公衆衛生①
8	1章 地域保健と公衆衛生②
9	2章 母子保健①
10	2章 母子保健②
11	3章 学校保健
12	4章 成人保健
13	5章 産業保健 6章 老人 (高齢者) 保健
14	7章 精神保健 2章 疫学 (I編)
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯周病学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	ただの暗記にとどまらず、より理解を深めるために自主的・積極的に授業に臨むこと。

科目的目標	歯周病治療は臨床においても歯科衛生士の果たす役割の非常に大きい分野である。 基本からしっかりと身につけることを目標とする。
授業概要	授業は座学にて行う。教科書をベースに、適宜プリントやスライドを用いて説明していく。

日程

回 数	授業内容
1	歯周治療とは
2	正常な歯周組織の構造と機能
3	歯周疾患
4	歯周治療の進め方
5	歯周病の検査
6	歯周基本治療
7	歯周外科治療（1）
8	歯周外科治療（2）
9	前半のまとめと復習
10	歯周治療としての口腔機能回復治療
11	メインテナンス
12	歯周治療における歯科衛生士の役割（1）
13	歯周治療における歯科衛生士の役割（2）
14	歯周治療における歯科衛生士の役割（3）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	64
		履修年次	1学年
		実施学期	2・3学期
教員名	久間 雅代	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	・歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 ・身だしなみをしっかりと整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。実技試験は3学期に実施する。

科目の目標	・口腔内情報収集の方法を知り、実践できる。 ・相互実習を行う中で、患者を思いやる心や協力する態度を養い、各自の技術の向上に努める。
授業概要	・歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、実習室の使用方法・清掃方法①
2	実習室の使用方法・清掃方法②
3	口腔内の情報収集、口腔内検査①
4	口腔内の情報収集、口腔内検査②
5	口腔内の情報収集、口腔内検査③
6	口腔内の情報収集、口腔内検査④
7	口腔内の情報収集、口腔内検査⑤
8	口腔内の情報収集、口腔内検査⑥
9	口腔内の情報収集、歯周組織検査①
10	口腔内の情報収集、歯周組織検査②
11	口腔内の情報収集、歯周組織検査③
12	口腔内の情報収集、歯周組織検査④
13	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑤

14	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑥
15	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑦
16	総復習

C

C

科 目	歯科保健指導Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	三森 順子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	小テスト、提出物、定期試験を総合して評価する。
留意事項	毎回の授業記録をきちんと行い、次の授業に役立てること。

科目の目標	ライフステージごとの口腔内を理解し、それに相応しい歯科保健指導を実施するための知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な基礎知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	ライフステージにおける歯科衛生介入①
2	ライフステージにおける歯科衛生介入②
3	ライフステージにおける歯科衛生介入③
4	ライフステージにおける歯科衛生介入④
5	ライフステージにおける歯科衛生介入⑤
6	ライフステージにおける歯科衛生介入⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	分野区分	専門
	講義又は実習の区分	実習
	履修区分	必修
	単位数	1
	時間数	32
	履修年次	1学年
	実施学期	2学期
教員名	美馬 寿恵	教員区分 実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に習得した歯科衛生士の3大業務の内容をよく復習し、実習に臨むこと。 ・身だしなみをしっかりと整え、忘れ物がないように注意し、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。

科目の目標	歯科保健指導とは何かを知り、人々に対し、歯・口腔の健康の維持・増進を支援するため必要な基本的知識と技術、および態度を習得する。
授業概要	歯科保健指導に必要な基本的技術、医療面接をマネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、実習室の使用方法・清掃方法
2	医療面接、口腔清掃法①
3	医療面接、口腔清掃法②
4	口腔内観察、歯垢染色、口腔清掃方法①
5	口腔内観察、歯垢染色、口腔清掃方法②
6	口腔内観察、歯垢染色、口腔清掃方法③
7	口腔内観察、口腔清掃指導①
8	口腔内観察、口腔清掃指導②
9	口腔内観察、口腔清掃指導③
10	口腔内観察、口腔清掃指導④
11	口腔内観察、口腔清掃指導⑤
12	口腔内観察、口腔清掃指導⑥
13	総復習①
14	実技試験

15	実技試験の解答と解説
16	総復習②

科 目	歯科診療補助Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	片岡 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	忘れ物をしないように心掛け、予習復習をしっかり行い授業に臨むこと。

科目の目標	さまざまなライフステージにおける高度歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する基礎知識を身につける。
授業概要	歯科における医療安全を円滑に進めるため、必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	歯科医療における歯科診療補助①
2	歯科医療における歯科診療補助②
3	歯科医療における歯科診療補助③
4	歯科医療における歯科診療補助④
5	歯科医療における歯科診療補助⑤
6	歯科医療における歯科診療補助⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	特別教養科目 (接遇・作法)	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	岡田 稔仁	教員区分	一般教員

教科書	講師作成のハンドアウト
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	講義の受講のみならず、実技演習も行う。予習・復習に勤しむこと。 受講マナーを遵守して授業に臨むこと。

科目的目標	職場の現場で働くスタッフが、ホスピタリティの本当の意味を理解し、日常業務の中で接遇とマナー溢れる行動をとれるようとする。
授業概要	事前課題を提示するので、講義前から自分の「ホスピタリティの感性」を確認し、当日の講義をより効果的にする。講義/実技/ディスカッションの体験型研修により“腹落ち”して実践できるようとする。参加者同士のコミュニケーションを活性化し、より多くの「事例」とその「考え方」を共有し、柔軟性のある対応を身につけるようとする。

日程

回 数	授業内容
1	(1)接遇・作法とは? (2)なぜ、ホスピタリティは大切か？ / ホスピタリティは難しいこと? (3)「お・も・て・な・し」 / 世界が見る日本のおもてなし文化
2	ホスピタリティとは? (1)ホスピタリティの概念 ①ホスピタリティとサービスの違い ②日本流ホスピタリティ:日本の生活文化、地域社会に根づいたホスピタリティ (2)ホスピタリティ・マインド(おもてなしの心) : 21世紀はホスピタリティ社会 (3)ノーマライゼーションと高齢化社会
3	ホスピタリティの感性を磨く【ディスカッション:事前課題】 (1)心温まるちょっといい話 (2)記憶に残る良いサービスと悪いサービス
4	ホスピタリティの事例 (1)カスタマーフォーカス (2)マナーの徹底 (3)ひとの心が動く時 (4)その他の取り組み事例
5	ホスピタリティの自己表現 その1 (1)基本マナー(マナーとは?/身だしなみ/挨拶・お辞儀/表情) (2)立ち居振る舞い(心構え/基本動作/スマートな身のこなし)
6	ホスピタリティの自己表現 その2 (3)言葉遣い(敬語/間違いややすい敬語/ホスピタリティのある話し方・聞き方) (4)電話応対の基本 (5)ビジネスメールの基本
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	保存修復学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	菅野 文雄	教員区分	一般教員

教科書	「歯の硬組織・歯髓疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験・小テストを総合して評価する。
留意事項	休まず出席すること。 (予習よりも復習を重視するように)

科目の目標	歯牙硬組織の疾患及びその治療方法を理解し、臨床実習の場で役立つ知識を習得する。
授業概要	歯牙硬組織の疾患と治療方法を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	総論 1 保存修復学とは う蝕の病態 歯牙硬組織の疾患
2	総論 2 総論 1 の続き 窝洞形態について 切削器具
3	各論 1 直接法修復 (コンポジットレジン、グラスアイオノマー) 処置の流れ
4	各論 2 間接法修復 (インレー、アンレー) 処置の流れ
5	各論 3 口腔内審査 間接法修復 (合着材 接着剤)
6	各論 4 その他の間接法修復法 (ラミネートベニア、セラミックインレー) 試験準備
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯内療法学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	田中 隆博	教員区分	一般教員

教科書	「歯の硬組織・歯髓疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	講義プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	歯内療法は歯を保存するための最も基本的な学問である。予習・復習に勤しむこと。

科目の目標	歯内療法学の基礎を理解し、臨地実習の際に重要な知識を習得する。
授業概要	歯内療法学に関する基礎知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	歯内療法領域の主な疾患の概要と原因、処置方針①（歯髓疾患）
2	歯内療法領域の主な疾患の概要と原因、処置方針②（根尖性歯周組織疾患）
3	歯髓保存療法①
4	歯髓保存療法②
5	歯髓除去療法（抜髓法）、感染根管治療、根管充填①
6	歯髓除去療法（抜髓法）、感染根管治療、根管充填② 歯内療法における安全対策
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科補綴学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。適宜プリントを配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	歯科補綴は保存修復と並んで一般歯科診療において重要な位置を占める分野です。 各自意欲を持って積極的に授業に臨んでください。

科目の目標	歯科補綴の概要を理解する。 歯科補綴治療における歯科衛生士の役割を理解する。
授業概要	歯科補綴の目的、分類、臨床について包括的に理解し、その知識に基づいて、実際の臨床の場で歯科衛生士が果たすべき役割を学んでいく。

日程

回 数	授業内容
1	補綴歯科治療に関する基礎知識
2	補綴歯科治療の実際（1）検査・診断、クラウン・ブリッジ治療
3	補綴歯科治療の実際（2）有床義歯治療、インプラント治療
4	補綴歯科治療に用いられる器材、補綴歯科治療における歯科技工
5	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割（1）検査・診断時の業務、治療時の業務
6	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割（2）患者指導、器材の管理
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	小児歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	三輪 全三	教員区分	一般教員

教科書	「小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策④」（医歯薬出版）
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業内容について教科書で予習・復習をすること。

科目の目標	小児歯科学の概要を理解し、歯科衛生士として小児歯科臨床に必要な知識・技術・態度を修得する。
授業概要	小児歯科学について学習する。

日程

回 数	授業内容
1	I. 小児歯科診療の基礎知識 小児歯科学概論、心身の発育、小児の生理的特徴
2	顔面頭蓋の発育、歯の発育とその異常
3	歯列・咬合の発育と異常
4	小児の歯科疾患（う蝕）
5	小児の歯科疾患（歯周病・口腔軟組織疾患）
6	II. 小児歯科診療 III. 小児歯科診療における歯科衛生士の役割
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科矯正学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	小堀 理恵	教員区分	一般教員

教科書	「歯科矯正学」新・歯科衛生士教育マニュアル 監修(クインテッセンス出版)
参考書	講義プリント
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	矯正治療の概要から成り立ちを理解し、定義や知識と概念、チーム歯科医療の一員として歯科衛生士の役割を理解すること。

科目の目標	矯正歯科治療での歯科衛生士の役割を説明できる。不正咬合の種類や治療に必要な器具・機材を説明できる。
授業概要	矯正歯科治療に関する基礎および臨床における知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	矯正歯科治療の概要・基礎知識
2	矯正歯科診断・矯正歯科治療と力
3	矯正装置
4	矯正歯科治療の実際
5	矯正歯科臨床における衛生士の役割・口腔筋機能療法
6	矯正歯科器材、資料、文書の管理・これまでのまとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	青木 可奈子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指定
成績評価	定期試験および小テストを総合して評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 実際に器具にも触れるので爪を切つておくこと。（マニキュア・ネイルアートも禁止）

科目の目標	各種スケーラー、器具の特徴、使用目的、種類、使用方法を説明できる。
授業概要	衛生的で安全、かつ適切に器具を使用できるように知識を習得する。 歯周疾患、またその予防のための歯石除去法について知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	手用スケーラーの形態と用途①
2	手用スケーラーの形態と用途②
3	手用スケーラーの形態と用途③
4	超音波スケーラーとエアースケーラーの特徴と用途
5	歯面研磨・清掃 歯面清掃器
6	歯面清掃器 キュレットスケーラー確認テスト まとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	64
		履修年次	1学年
		実施学期	2・3学期
教員名	久間 雅代	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。実技試験は3学期に実施する。

科目の目標	口腔内情報収集の方法を知り、実践できる。 相互実習を行う中で、患者を思いやる心や協力する態度を養い、各自の技術の向上に努める。
授業概要	歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、実習室の使用方法・清掃方法①
2	実習室の使用方法・清掃方法②
3	口腔内の情報収集、口腔内検査①
4	口腔内の情報収集、口腔内検査②
5	口腔内の情報収集、口腔内検査③
6	口腔内の情報収集、口腔内検査④
7	口腔内の情報収集、口腔内検査⑤
8	口腔内の情報収集、口腔内検査⑥
9	口腔内の情報収集、歯周組織検査①
10	口腔内の情報収集、歯周組織検査②
11	口腔内の情報収集、歯周組織検査③
12	口腔内の情報収集、歯周組織検査④
13	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑤
14	口腔内の情報収集、歯周組織検査⑥

1 5	口腔内情報収集、歯周組織検査⑦
1 6	総復習

(

(

科 目	臨床検査法	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	守谷 友二朗	教員区分	一般教員

教科書	「臨床検査」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	教科書を中心に予習、復習を行い、国家試験合格のための基礎力をつけること。

科目的目標	歯科衛生士にとって必要な臨床検査について習得する。
授業概要	歯科衛生士にとって重要なポイントを中心に解説する。

日程

回 数	授業内容
1	臨床検査とは・生体検査（体温検査・脈拍検査・血圧検査）
2	生体検査（心機能検査・肺機能検査・筋電図検査・脳波検査・血中酸素濃度検査）
3	検体検査（血液を用いる検査・感染症検査・病理検査）
4	口腔領域の臨床検査
5	摂食嚥下関連の検査
6	主な疾患・病態別検査値の捉え方と総まとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	猪俣 理恵	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席すること。期限内に提出物を提出するよう心掛ける。

科目の目標	臨床実習について理解し、歯科衛生士として必要な知識・態度を習得する。
授業概要	来年度の臨床実習に向け必要知識・態度について学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	臨床実習に向けての学習①
2	臨床実習に向けての学習②
3	臨床実習に向けての学習③
4	臨床実習に向けての学習④
5	臨床実習に向けての学習⑤
6	まとめと総復習
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	医療人間科学Ⅱ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	菅野 真由美	教員区分	一般教員

教科書	「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	ひとこと英会話 in the Dental Clinic (デンタルハイジーン)
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	英単語並びに実践英会話をしっかりと声に出し発音する事に留意して授業に臨むこと。

科目の目標	実践的な歯科診療の場面に沿った英会話並びに専門的英単語を習得する。
授業概要	上記の英会話、専門的英単語を紹介し、授業にて実際に発音し、会話の練習をしていく。

日程

回 数	授業内容
1	英単語の学習（歯の名称、部位の名称、口腔解剖用語、歯科医療に携わる者）
2	英単語の小テスト、英単語の学習（歯科学）、ひとこと英会話（電話で予約を受け付けよう）
3	英単語の小テスト、英単語の学習（検査）、ひとこと英会話（問診）
4	英単語の小テスト、英単語の学習（痛みの種類）、ひとこと英会話（スケーリング）
5	英単語の小テスト、ひとこと英会話（薬剤、内服薬）
6	英単語の小テスト、ひとこと英会話（ブラッシング）
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	医療人間科学Ⅲ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	菅野 真由美	教員区分	一般教員

教科書	「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	ひとこと英会話 in the Dental Clinic (デンタルハイジーン)
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	英単語並びに実践英会話をしっかりと声に出し発音する事に留意して授業に臨むこと。

科目の目標	実践的な歯科診療の場面に沿った英会話並びに専門的英単語を習得する。
授業概要	上記の英会話、専門的英単語を紹介し、授業にて実際に発音し、会話の練習をしていく。

日程

回 数	授業内容
1	英単語の学習（全身疾患）、ひとこと英会話（術後、診療後の指示）
2	英単語の小テスト、英単語の学習（歯科疾患）、ひとこと英会話（シーラント）
3	英単語の小テスト、英単語の学習（歯科治療）、ひとこと英会話（印象採得）
4	英単語の小テスト、英単語の学習（X線写真）
5	英単語の小テスト、ひとこと英会話（受付での会話、フレーズ集）
6	英単語の小テスト、ひとこと英会話（チェアサイドでの会話、フレーズ集）
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	薬理学（歯科薬理学）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	久保山 昇	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	歯科衛生士国家試験問題集（医歯薬出版）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	講義で理解不十分なところは、なるべく授業中に解決できるようにする。

科目の目標	医薬品の薬理作用や体内動態、副作用や毒性など基本的な事項と、歯科診療で頻用される医薬品について正しい知識を身につける。
授業概要	薬理学の基本的な知識を身につけると共に、歯科臨床で用いられる薬物の特徴や副作用について必要な事項について学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	総論①：薬物の作用（2p～10p）
2	総論②：薬物動態及び薬物の適用方法の種類（11p～27p）
3	総論③：薬物の作用に影響を与える要因（28-36p）、薬物の取り扱い及び法律（51p～64p）
4	総論④：薬物の副作用・有害作用及び医薬品を適用（37p～50p）
5	末梢神経系に作用する薬物（73-80p）
6	中枢神経系に作用すると薬物（81-92p）
7	循環器系に作用する薬物及び腎臓・呼吸器系に作用する薬物（93-108p）
8	消化器系に作用する薬物及び血液に作用する薬物（109-117p）
9	代謝性疾患治療薬及び炎症と薬（129-143p）
10	痛みと薬及び局所麻酔薬（144-158p）
11	抗感染症薬（159-169p）
12	消毒に使用する薬（170-180p）
13	う蝕予防薬及び歯内療法薬（181-190p）
14	歯周疾患治療薬及び頸・口腔粘膜疾患と薬（191-203p）
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	口腔外科学・歯科麻酔学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2 学年
		実施学期	1 学期
教員名	小林 匠	教員区分	一般教員

教科書	「頸・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	授業の予習復習を行い、休まず出席すること。

科目の目標	口腔外科疾患の種類・特徴等が分類できること。各種麻酔法・救急蘇生法を含め、歯科領域における全身管理や偶発症等への対応を理解すること。
授業概要	歯科衛生士にとって必要な口腔外科学（歯科麻酔学含む）について学習する。

日程

回 数	授業内容
1	口腔外科の概要 口腔外科診療の実際①
2	口腔外科診療の実際②
3	口腔外科診療の実際③
4	歯科治療における歯科麻酔と患者管理 局所麻酔①
5	局所麻酔② 精神鎮静法
6	全身麻酔 救急蘇生法
7	頸・口腔領域の先天異常と発育異常
8	頸・口腔領域の損傷および機能障害 口腔粘膜の病変①
9	口腔粘膜の病変②
10	頸・口腔領域の化膿性炎症疾患 頸・口腔領域の囊胞性疾患
11	頸・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 唾液腺疾患
12	口腔領域の神経疾患
13	口腔外科・歯科麻酔処置における業務
14	歯科衛生士が行う術前・術後のケアと器材の管理
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	高齢者歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	櫻井 薫	教員区分	一般教員

教科書	「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	資料の配布、「高齢者歯科学 第3版」（永末書店）
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	安易な遅刻欠席はしないよう心がけ、復習をしっかり行い授業に臨むこと。

科目的目標	高齢者に対する歯科衛生士業務を適切に実施するために必要な知識を習得することを目的に、我が国の高齢者を取り巻く状況、加齢変化・老化、高齢者の身体・精神・社会的特徴、主要な疾病と歯科治療時の対応法および高齢者の歯科診療の特徴について学ぶ。また、高齢者の口腔機能の評価法、口腔機能の維持・向上、口腔機能管理および口腔機能のリハビリテーションについても学習する。
授業概要	高齢者歯科医療を安全かつ円滑に行うために必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	高齢者をとりまく社会と環境—社会環境
2	高齢者をとりまく社会と環境—社会保障
3	加齢による全身の変化—加齢と老化、組織器官の変化
4	加齢による精神の変化、口腔の変化
5	高齢者における口腔疾患—う蝕、歯周疾患、口腔粘膜疾患
6	高齢者における口腔疾患—口腔乾燥、口臭、その他の疾患
7	高齢者の状態の把握—医療情報、全身状態の評価
8	高齢者の状態の把握—特別な配慮を必要とする患者への対応
9	高齢者歯科医療の場—通院困難者とは、外来診療、往診と訪問診療
10	口腔衛生管理—口腔衛生管理の視点から見た高齢者の口腔内環境、口腔環境の評価法
11	口腔衛生管理—口腔環境の管理の実際
12	摂食嚥下障害とりハビリテーション—摂食嚥下機能のメカニズム
13	摂食嚥下障害とりハビリテーション—摂食嚥下機能の評価・診断、摂食嚥下障害への対応
14	介護保険における歯科衛生士の役割
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科放射線学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	1 6
		履修年次	2 学年
		実施学期	1 学期
教員名	大野 宏樹	教員区分	一般教員

教科書	「歯科放射線」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリント適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	患者に対する放射線防護については常に考えること。

科目の目標	臨床実習中に毎日取り扱いをする口内法撮影法の正しい位置付け、パノラマエックス線撮影法の正しい位置付けの習得に留意を置く。
授業概要	撮影後の画像について、良かった原因、悪かった原因について評価ができる様になる。

日程

回 数	授業内容
1	歯科におけるエックス線検査①
2	歯科におけるエックス線検査②
3	エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割①
4	エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割②
5	歯科医療と放射線①
6	歯科医療と放射線② まとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	久間 雅代	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜、授業プリントを配布する。
成績評価	定期試験及び小テストで評価する。
留意事項	体調管理に気を配り、休まず出席すること。

科目の目標	専門基礎分野の知識も踏まえ、予防処置の方法、応用を考えることができる。 歯科衛生士に不可欠な器具のメインテナナンスについて習得する。
授業概要	今まで学習した講義や実習と関連づけながら歯科予防処置について学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	シャープニング①
2	シャープニング②
3	小窩裂溝填塞法
4	う蝕活動性試験・歯周病に関連する検査①
5	う蝕活動性試験・歯周病に関連する検査②
6	う蝕活動性試験・歯周病に関連する検査③
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	6 4
		履修年次	2 学年
		実施学期	1 学期
教員名	青木 可奈子	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 ・身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。

科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手用スケーラー、超音波スケーラー、エアスケーラーの正しい「知識・用途・技能」を身につける。 ・部位に適したキュレットスケーラーを選択することができる。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に臨床の応用力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1・2	・オリエンテーション 手用スケーラー①
3・4	・手用スケーラー② ・歯面研磨のための器具・機械①
5・6	・手用スケーラー③ ・歯面研磨のための器具・機械②
7・8	・手用スケーラー④ ・歯面研磨のための器具・機械③
9・10	・手用スケーラー⑤ ・歯面研磨のための器具・機械④
11・12	・手用スケーラー⑥ ・歯面研磨のための器具・機械⑤
13・14	・手用スケーラー⑦ ・歯面研磨のための器具・機械⑥
15・16	・手用スケーラー⑧ ・歯面研磨のための器具・機械⑦
17・18	・手用スケーラー⑨ ・歯面研磨のための器具・機械⑧
19・20	・超音波スケーラー・エアスケーラー① ・歯面研磨のための器具・機械⑨
21・22	・超音波スケーラー・エアスケーラー② ・歯面研磨のための器具・機械⑩
23・24	・超音波スケーラー・エアスケーラー③ ・歯面研磨のための器具・機械⑪
25・26	実技試験前の総復習

27・28	実技試験
29・30	実技試験の解答と解説
31・32	総復習

科 目	歯科保健指導Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	三森 順子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	必要に応じ指示する。
成績評価	小テスト、提出物、定期試験を総合して評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な授業となるので欠席しないこと。 忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。

科目の目標	様々な対象者の特性を知り、対象者に寄り添った歯科保健指導を行うための知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	ライフステージ別の歯科保健指導①
2	ライフステージ別の歯科保健指導②
3	対象者別の歯科保健指導①
4	対象者別の歯科保健指導②
5	対象者別の歯科保健指導③
6	対象者別の歯科保健指導④
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	猪俣 理恵	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	小テスト、定期試験を総合して評価する。
留意事項	歯科診療補助実習と併せて進めていくため、総合的に学習すること。 1年次に学習した内容をよく復習して臨むこと。

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料・歯科器具の用途を理解、習熟し、臨床の場で対応できる知識を身につける。
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	歯科診療室における基礎知識
2	歯科診療で扱う歯科材料①
3	歯科診療で扱う歯科材料②
4	治療時の診療補助①
5	歯科診療で扱う歯科材料③
6	治療時の診療補助②
7	治療時の診療補助③
8	治療時の診療補助④
9	治療時の診療補助⑤
10	治療時の診療補助⑥
11	治療時の診療補助まとめ
12	主な全身疾患とその対応①
13	主な全身疾患とその対応②
14	歯科訪問診療における対応
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科診療補助実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	猪俣 理恵	教員区分	実務教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	歯科診療補助Ⅲと併せて進めていく。時間を有効に使い、また実習内で協力し合いチームワークも学習する。また、欠席しないよう、体調管理に気を配ること。さらに、1年次に学習した内容をよく復習して臨むこと。

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料・歯科器具の用途を理解、習熟し、臨床の場で対応できる知識、技術及び態度を身につける。
授業概要	マネキン及び学生相互による実技実習を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に臨床の応用力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	アルジネート印象材①
2	模型の作製①
3	アルジネート印象材②
4	アルジネート印象材③
5	合着材・接着材①
6	合着材・接着材②
7	仮封材①
8	仮封材②
9	合成ゴム質印象材
10	模型の作製②
11	模型の作製③
12	ラバーダム防湿①
13	ラバーダム防湿②

1 4	実技試験
1 5	実技試験の解答と解説
1 6	総復習

科 目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	1
		時間数	1 6
		履修年次	2 学年
		実施学期	1 学期
教員名	歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	臨床実習について理解し、歯科衛生士として必要な知識・態度を習得する。
授業概要	臨床実習に向け必要知識・態度について学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	臨床実習に向けての学習①
2	臨床実習に向けての学習②
3	臨床実習に向けての学習③
4	臨床実習に向けての学習④
5	臨床実習に向けての学習⑤
6	まとめと総復習
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	衛生統計学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	渡部 亜希	教員区分	一般教員

教科書	「保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	忘れ物をしないように心掛け、予習復習をしっかり行い授業に臨むこと。

科目的目標	高度な医療を提供するために、膨大な情報の中から必要な情報を取捨選択し、活用する方法を身につける。
授業概要	歯科衛生士として得た情報を口腔内の疾病予防、健康増進に活用する方法を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	衛生統計学①
2	衛生統計学②
3	衛生統計学③
4	衛生統計学④
5	衛生統計学⑤
6	歯科疾患の指標①
7	歯科疾患の指標②
8	歯科疾患の指標③
9	歯科疾患の指標④
10	歯科疾患の指標⑤
11	歯科疾患の指標⑥
12	歯科疾患の指標⑦
13	歯科の疫学①
14	歯科の疫学②
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科保健指導実習 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	美馬 寿恵	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜配布する。
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	身だしなみをしっかりと整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持ち授業に臨むこと。

科目的目標	<ul style="list-style-type: none"> 集団、個人など各対象者に合わせた歯科衛生介入を想定し、それぞれに適した歯科保健指導を行う為の実践力を身につける。 保健、医療、福祉に関わる意義と歯科衛生士の役割を理解する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 媒体を作製し、対象者の年齢、環境に合わせた保健指導について学ぶ。 臨床の場において対応できる基本的支援技術を学ぶ。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に臨床の応用力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	健康教育について①
2	健康教育について②
3	健康教育について③
4	健康教育について④
5	健康教育について⑤
6	歯科衛生介入を考える①
7	歯科衛生介入を考える②
8	歯科衛生介入を考える③
9	歯科衛生介入を考える④
10	個人媒体作製①
11	個人媒体作製②
12	個人媒体作製③
13	総復習①
14	実技試験

15	実技試験の解答と解説
16	総復習②

C

C

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1 2
		時間数	5 4 0
		履修年次	2学年
		実施学期	2・3学期
教員名	全教員	教員区分	一般教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	「2019年度4期生 第Ⅰ期臨床実習要綱」
成績評価	出席、実習記録、指導者評価表により評価する。
留意事項	遅刻欠席せず実習に臨む。守秘義務を遵守する。実習記録は不備なく作成し、訂正も最後まで完了させること。また、提出物の期限は厳守すること。

科目の目標	基礎知識・技能を発展させるために、患者や施設スタッフとコミュニケーションを取りながら、自発的に実践に必要な知識・技術・態度を修得する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院にて臨床実習として週に4回実習を行う。 実践実習、実習記録の作成を日々行い、臨床の現場で学ぶ。

日程

別マニュアルに定める

科 目	障がい者歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	3学期
教員名	櫻井 薫	教員区分	一般教員

教科書	「障害者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	知識や技術のみならず、人としての「心」がより一層大切になる分野です。 各自、意欲を持って積極的に授業に臨んでください。

科目の目標	歯科衛生士として様々な障害者の歯科的問題に適切に対応するために、障害者歯科学の基本的知識を習得する。
授業概要	障害者の特徴、周辺環境、関わり方などについて包括的に理解し、その知識に基づいて、実際の臨床の場で歯科衛生士が果たすべき役割を学んでいく。

日程

回 数	授業内容
1	障害の概念、歯科医療で特別な支援が必要な疾患（精神発達・心理的発達と行動障害）
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患（運動障害、感覚障害、音声言語障害、精神および行動の障害）
3	障害者の歯科医療と行動調整
4	障害者に対する健康支援と口腔衛生管理、リスク評価と安全管理
5	摂食嚥下リハビリテーション
6	地域における障害者歯科
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	12
		時間数	540
		履修年次	2学年
		実施学期	2・3学期
教員名	全教員	教員区分	一般教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	「2019年度4期生 第Ⅱ期臨床実習要綱」
成績評価	出席、実習記録、指導者評価表により評価する。
留意事項	遅刻欠席せず実習に臨む。守秘義務を遵守する。実習記録は不備なく作成し、訂正も最後まで完了させること。また、提出物の期限は厳守すること。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院にて臨床実習として週に4回実習を行う。 実践実習、実習記録の作成を日々行い、臨床の現場で学ぶ。

日程

別マニュアルに定める

科 目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	1
		時間数	1 6
		履修年次	2 学年
		実施学期	3 学期
教員名	内藤 美生	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	休まず出席すること。

科目の目標	多様な歯科衛生士の活躍の場について理解し、臨地実習に必要な知識・態度を習得する。
授業概要	来年度の臨地実習に向け必要な知識・態度について学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	臨地実習に向けての学習①
2	臨地実習に向けての学習②
3	臨地実習に向けての学習③
4	臨地実習に向けての学習④
5	臨地実習に向けての学習⑤
6	まとめと総復習
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科介護学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生士のための 看護学大意 第3版」(医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	講義ごとに専門の講師を招いて行う。休まず出席すること。

科目の目標	介護の場に必要な知識を身につける。
授業概要	多職種との連携の意義を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	地域医療・地域保健における他職種との連携①
2	歯科衛生士に必要な看護の知識①
3	歯科衛生士に必要な看護の知識②
4	歯科衛生士に必要な介護現場の基礎知識
5	患者とのコミュニケーション、記録作成の基礎知識
6	介護現場での口腔ケアの目的、患者状態別の注意点
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	摂食嚥下リハビリテーション学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	大塚 紗香	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」 公益社団法人 日本歯科衛生士会 監修（医歯薬出版）
参考書	講師作成による配布資料。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	口腔の解剖学・生理学的な知識を復習しておくこと。

科目の目標	歯科衛生士と摂食・嚥下の関わりについての理解を深める。
授業概要	摂食・嚥下リハビリテーションに関する基礎的知識・技術を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	総論/口腔・咽頭・喉頭の解剖と生理／摂食嚥下機能の発達と食育
2	小児・成人・高齢者の摂食嚥下障害と、歯科衛生士によるケア
3	歯科衛生士の行う口腔ケアの効果と実際
4	摂食嚥下障害における訓練
5	摂食嚥下障害に対する食指導・食支援
6	合併症等のリスクマネジメントとチーム医療
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯科保健指導実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	3 学年
		実施学期	1 学期
教員名	内藤 美生	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）適宜プリントを配布する。
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	臨地実習中の小学校等で実施する集団指導の日程に合わせ、完成させること。 グループで行うので、体調管理に留意し、遅刻・欠席をしないように努めること。

科目の目標	集団への健康教育の実施の際、対象者に合った内容を考えられる。また、集団指導を実施するにあたり安全面に十分に配慮した計画を立案できる。
授業概要	臨地実習の小学校で実施する健康教育の指導案を作成し、実施に向けた準備を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	健康教育の進め方
2	集団に対する健康教育指導①
3	集団に対する健康教育指導②
4	集団に対する健康教育指導③
5	集団に対する健康教育指導④
6	集団に対する健康教育指導⑤
7	集団に対する健康教育指導⑥
8	集団に対する健康教育指導⑦
9	集団に対する健康教育指導⑧
10	集団に対する健康教育指導⑨
11	集団に対する健康教育指導⑩
12	集団に対する健康教育指導⑪
13	集団に対する健康教育指導⑫
14	実技試験
15	実技試験の解答と解説
16	総復習

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	8
		時間数	360
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	全教員	教員区分	実務教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	「2019年度3期生 第Ⅲ期臨床実習要綱」
成績評価	出席、実習記録、指導者評価表により評価する。
留意事項	遅刻欠席せず実習に臨む。守秘義務を遵守する。実習記録は不備なく作成し、訂正も最後まで完了させること。また、提出物の期限は厳守すること。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。歯科医療施設について理解を深め、歯科衛生士に求められる役割を理解する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院や施設にて、臨床実習として週に4回実習を行う。実践実習、実習記録の作成を日々行い、臨床の現場で学ぶ。

実務経験	歯科医師、歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

別マニュアルに定める

科 目	医療人間科学IV	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	利根川 幸子 他	教員区分	一般教員

教科書	なし(授業時にプリントを配布する。)
参考書	授業プリント、および適宜案内する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。

科目的目標	現在の社会で役に立てる医療人になるために必要な知識を習得する。
授業概要	様々な分野の講師による講義で、現在の社会、医療の場に必要な知識を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	医療人として社会で活躍するために必要となる知識①
2	医療人として社会で活躍するために必要となる知識②
3	医療人として社会で活躍するために必要となる知識③
4	医療人として社会で活躍するために必要となる知識④
5	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑤
6	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑥
7	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑦
8	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑧
9	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑨
10	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑩
11	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑪
12	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑫
13	医療人として社会で活躍するために必要となる知識⑬
14	まとめと総復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科衛生士概論 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	久間 雅代	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯周病学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） その他適宜必要となる資料を配布する。
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。忘れ物をしないこと。

科目の目標	今まで学習してきた歯科予防処置を基礎から復習し、様々な知識を関連付け総合的に理解する。
授業概要	歯科衛生士としての知識と理解を深め、応用力をつけていく。

日程

回 数	授業内容
1	各論総復習①
2	各論総復習②
3	各論総復習③
4	各論総復習④
5	各論総復習⑤
6	各論総復習⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	先端歯科医療学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	利根川 幸子 他	教員区分	一般教員

教科書	なし (授業時にプリントを配布する。)
参考書	授業プリント、および適宜案内する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	遅刻、欠席をしないこと。

科目的目標	これから歯科衛生士に必要な知識を習得する。
授業概要	様々な分野の講師による講義で、近年の歯科臨床に必要な知識を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	近年の歯科臨床に必要な知識①
2	近年の歯科臨床に必要な知識②
3	近年の歯科臨床に必要な知識③
4	近年の歯科臨床に必要な知識④
5	近年の歯科臨床に必要な知識⑤
6	近年の歯科臨床に必要な知識⑥
7	近年の歯科臨床に必要な知識⑦
8	近年の歯科臨床に必要な知識⑧
9	近年の歯科臨床に必要な知識⑨
10	近年の歯科臨床に必要な知識⑩
11	近年の歯科臨床に必要な知識⑪
12	近年の歯科臨床に必要な知識⑫
13	近年の歯科臨床に必要な知識⑬
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	歯科予防処置実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	内藤 美生	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	欠席・遅刻せず、正しい身だしなみで出席する。清潔・不潔の区別と安全に注意する。

科目的目標	診療室内の患者状況を想定し患者情報の守秘義務・感染対策・安全管理に留意した歯科予防処置を行う。安全に歯科予防処置を行うために、状況を判断し正しく機械操作を行う。
授業概要	臨床実習での経験を発展させ、歯科衛生士としての歯科予防処置実践能力を高める。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	歯科予防処置の実践①
3	歯科予防処置の実践②
4	歯科予防処置の実践③
5	歯科予防処置の実践④
6	歯科予防処置の実践⑤
7	歯科予防処置の実践⑥
8	歯科予防処置の実践⑦
9	歯科予防処置の実践⑧
10	歯科予防処置の実践⑨
11	歯科予防処置の実践⑩
12	歯科予防処置の実践⑪
13	歯科予防処置の実践⑫
14	実技試験
15	実技試験の解答と解説
16	総復習

科 目	歯科診療補助実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	内藤 美生	教員区分	実務教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	欠席・遅刻せず、正しい身だしなみで出席する。清潔・不潔の区別と安全に注意する。

科目的目標	診療室内の患者状況を想定し患者情報の守秘義務・感染対策・安全管理に留意した診療補助を行う。診療の補助としての指導及び処置といった業務の意味を理解し、実践できる。
授業概要	臨床実習での経験を発展させ、歯科衛生士としての歯科診療補助実践能力を高める。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	診療補助としての指導と処置①
3	診療補助としての指導と処置②
4	診療補助としての指導と処置③
5	診療補助としての指導と処置④
6	診療補助としての指導と処置⑤
7	診療補助としての指導と処置⑥
8	診療補助としての指導と処置⑦
9	診療補助としての指導と処置⑧
10	診療補助としての指導と処置⑨
11	診療補助としての指導と処置⑩
12	診療補助としての指導と処置⑪
13	診療補助としての指導と処置⑫
14	実技試験
15	実技試験の解答と解説
16	総復習

科 目	保険請求事務	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	時々輪 智恵子	教員区分	一般教員

教科書	特になし。
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 歯科衛生士と法律・制度 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験・出席・提出物を総合して評価する。
留意事項	初回授業では「歯科衛生士と法律・制度」の教科書を用意すること。電卓と、授業で配布されたプリントはファイル（個人で用意）で整理し、毎回用意すること。

科目の目標	医療保障制度の体系を理解し、医療保険制度の歯科医療分野における保険治療の算定方法を学習する。カルテから治療内容を保険病名に結び付け、保険点数化してレセプト作成ができる知識を習得する。
授業概要	歯科医療保険制度を理解し、歯科治療内容を点数化する作業をしながらレセプト作成する。毎回の授業において、「算定の例題」をプリント様式にして配布する。例題を解きながら授業を進める。

日程

回 数	授業内容
1	医療保障制度の概要と医療保険について
2	初診・再診・指導
3	う蝕・歯周病治療
4	根管治療・歯冠補綴
5	手術・欠損補綴（ブリッジ、義歯）
6	総まとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	総合科目ⅠA	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	渡部 亜希	教員区分	一般教員

教科書	下記記載の講義内容に対応した教本、ならびに問題集を使用する。
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。復習に際して、授業プリントに限らず、教本等を積極的に使用し、知識の再確認を行うこと

科目の目標	地域歯科保健活動、保健・医療・福祉の関連法規と制度を中心に、これまでの総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、臨地実習等で学んだ内容も含めた総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	地域歯科保健活動の総まとめ①
2	地域歯科保健活動の総まとめ②
3	地域歯科保健活動の総まとめ③
4	地域歯科保健活動の総まとめ④
5	地域歯科保健活動の総まとめ⑤
6	地域歯科保健活動の総まとめ⑥
7	地域歯科保健活動の総まとめ⑦
8	地域歯科保健活動の総まとめ⑧
9	環境・社会と健康、保健・医療・福祉の制度の総まとめ①
10	環境・社会と健康、保健・医療・福祉の制度の総まとめ②
11	環境・社会と健康、保健・医療・福祉の制度の総まとめ③
12	環境・社会と健康、保健・医療・福祉の制度の総まとめ④
13	環境・社会と健康、保健・医療・福祉の制度の総まとめ⑤
14	環境・社会と健康、保健・医療・福祉の制度の総まとめ⑥
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	総合科目ⅠB	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	三森 順子 他	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	毎回の授業記録をきちんと行い、次の授業に役立てること。

科目の目標	ライフステージごとの口腔内を理解し、それに相応しい歯科保健指導を実施するための知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な基礎知識を習得する。

日程

回 数	授業内容
1	ライフステージにおける歯科衛生介入①
2	ライフステージにおける歯科衛生介入②
3	ライフステージにおける歯科衛生介入③
4	ライフステージにおける歯科衛生介入④
5	ライフステージにおける歯科衛生介入⑤
6	ライフステージにおける歯科衛生介入⑥
7	ライフステージにおける歯科衛生介入⑦
8	ライフステージにおける歯科衛生介入⑧
9	ライフステージにおける歯科衛生介入⑨
10	ライフステージにおける歯科衛生介入⑩
11	ライフステージにおける歯科衛生介入⑪
12	ライフステージにおける歯科衛生介入⑫
13	ライフステージにおける歯科衛生介入⑬
14	ライフステージにおける歯科衛生介入⑭
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	総合科目ⅡA	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	田中 隆博	教員区分	一般教員

教科書	下記記載の講義内容に対応した教本、ならびに問題集を使用する。
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。復習に際して授業プリントに限らず、教本等を積極的に使用し、知識の再確認を行うこと。

科目的目標	歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療、歯の欠損と治療を中心にこれまでの総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、臨地実習等で学んだ内容も含めた総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	保存三科、歯科材料学の総まとめ①
2	保存三科、歯科材料学の総まとめ②
3	保存三科、歯科材料学の総まとめ③
4	保存三科、歯科材料学の総まとめ④
5	保存三科、歯科材料学の総まとめ⑤
6	保存三科、歯科材料学の総まとめ⑥
7	保存三科、歯科材料学の総まとめ⑦
8	保存三科、歯科材料学の総まとめ⑧
9	保存三科、歯科材料学の総まとめ⑨
10	補綴学の総まとめ①
11	補綴学の総まとめ②
12	補綴学の総まとめ③
13	骨のリモデリング、コラーゲン、栄養素の総まとめ①
14	骨のリモデリング、コラーゲン、栄養素の総まとめ②
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	総合科目ⅡB	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	大野 宏樹 他	教員区分	一般教員

教科書	下記記載の講義内容に対応した教本、ならびに問題集を使用する。
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。復習に際して授業プリントに限らず、教本等を積極的に使用し、知識の再確認を行うこと。

科目的目標	歯科治療中の診療補助を振り返り、特に配慮が必要とする患者への対応を考察する。
授業概要	演習問題を適宜実施し、臨地実習等で学んだ内容も含めた総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	歯科診療補助論の総まとめ①
2	歯科診療補助論の総まとめ②
3	歯科診療補助論の総まとめ③
4	歯科診療補助論の総まとめ④
5	歯科診療補助論の総まとめ⑤
6	歯科診療補助論の総まとめ⑥
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	総合科目ⅢA	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	大野 宏樹	教員区分	一般教員

教科書	下記記載の講義内容に対応した教本、ならびに問題集を使用する。
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。復習に際して授業プリントに限らず、教本等を積極的に使用し、知識の再確認を行うこと。

科目的目標	頸・口腔領域疾患の病因・病態を中心にこれまでの総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、臨地実習等で学んだ内容も含めた総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	歯牙解剖学・解剖学の総まとめ①
2	歯牙解剖学・解剖学の総まとめ②
3	微生物学・免疫学・病理学・主な全身疾患の総まとめ①
4	微生物学・免疫学・病理学・主な全身疾患の総まとめ②
5	微生物学・免疫学・病理学・主な全身疾患の総まとめ③
6	微生物学・免疫学・病理学・主な全身疾患の総まとめ④
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	総合科目ⅢB	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	大野 宏樹	教員区分	一般教員

教科書	下記記載の講義内容に対応した教本、ならびに問題集を使用する。
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。復習に際して授業プリントに限らず、教本等を積極的に使用し、知識の再確認を行うこと。

科目的目標	問題解決能力、並びにクリニカルシンキングを習得し、歯科治療時に必要な全身疾患に対する知識の総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、臨地実習等で学んだ内容も含めた総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	フッ化物に対する歯科保健指導の応用・総まとめ①
2	フッ化物に対する歯科保健指導の応用・総まとめ②
3	生理学・薬理学・歯科麻酔学の総まとめ①
4	生理学・薬理学・歯科麻酔学の総まとめ②
5	生理学・薬理学・歯科麻酔学の総まとめ③
6	生理学・薬理学・歯科麻酔学の総まとめ④
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	総合科目IV	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	2学期
教員名	大野 宏樹	教員区分	一般教員

教科書	下記記載の講義内容に対応した教本、ならびに問題集を使用する。
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験および小テストを含め評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。復習に際して授業プリントに限らず、教本等を積極的に使用し、知識の再確認を行うこと。

科目的目標	問題解決能力、並びにクリニカルシンキングを習得し、歯科治療時に必要な全身疾患に対する知識の総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、臨地実習等で学んだ内容も含めた総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	臨床解剖学の総まとめ①
2	臨床解剖学の総まとめ②
3	摂食嚥下機能評価の総まとめ①
4	摂食嚥下機能評価の総まとめ②
5	頸関節疾患の総まとめ
6	神経系疾患の総まとめ
7	定期試験
8	定期試験の解答と解説

科 目	総合学習 I	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	30
		履修年次	3学年
		実施学期	3学期
教員名	櫻井 薫／三森 順子／歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教科書	「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「障害者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。時間割表および教員からの伝達事項を良く確認し、講義内容に即した教本を必ず持参すること。忘れ物は自分だけでなく、周りの学生にも迷惑が掛かることを良く自覚すること。

科目の目標	患者を取り巻く臨床的な環境ならびに歯科保健指導を中心に、これまでの総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、これまで学習した内容も含め総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ①
2	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ②
3	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ③
4	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ④
5	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑤
6	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑥
7	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑦
8	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑧
9	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑨
10	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑩
11	定期試験
12	定期試験の解答と解説
13	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑪
14	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑫
15	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑬
16	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科保健指導の総まとめ⑭

科 目	総合学習Ⅱ	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	30
		履修年次	3学年
		実施学期	3学期
教員名	田中 隆博／大野 宏樹	教員区分	一般教員

教科書	「歯の硬組織・歯髓疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。時間割表および教員からの伝達事項を良く確認し、講義内容に即した教本を必ず持参すること。忘れ物は自分だけでなく、周りの学生にも迷惑が掛かることを良く自覚すること。

科目の目標	保存三科・歯科診療補助を中心に、これまでの総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、これまで学習した内容も含め総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	保存三科および歯科診療補助の総まとめ①
2	保存三科および歯科診療補助の総まとめ②
3	保存三科および歯科診療補助の総まとめ③
4	保存三科および歯科診療補助の総まとめ④
5	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑤
6	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑥
7	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑦
8	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑧
9	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑨
10	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑩
11	定期試験
12	定期試験の解答と解説
13	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑪
14	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑫
15	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑬
16	保存三科および歯科診療補助の総まとめ⑭

科 目	総合学習Ⅲ	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	30
		履修年次	3学年
		実施学期	3学期
教員名	和氣 創／久間 雅代／歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教科書	「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「障害者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。時間割表および教員からの伝達事項を良く確認し、講義内容に即した教本を必ず持参すること。忘れ物は自分だけでなく、周りの学生にも迷惑が掛かることを良く自覚すること。

科目の目標	患者を取り巻く臨床的な環境ならびに歯科予防処置を中心に、これまでの総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、これまで学習した内容も含め総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ①
2	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ②
3	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ③
4	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ④
5	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑤
6	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑥
7	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑦
8	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑧
9	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑨
10	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑩
11	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑪
12	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑫
13	定期試験
14	定期試験の解答と解説
15	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑬
16	患者を取り巻く臨床的な環境、歯科予防処置の総まとめ⑭

科 目	総合学習IV	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	30
		履修年次	3学年
		実施学期	3学期
教員名	田中 隆博／三上 ゆう子／小堀 理恵 ／大野 宏樹	教員区分	一般教員

教科書	「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。時間割表および教員からの伝達事項を良く確認し、講義内容に即した教本を必ず持参すること。忘れ物は自分だけでなく、周りの学生にも迷惑が掛かることを良く自覚すること

科目の目標	臨床歯科医学（歯科補綴・歯科矯正・小児歯科等）を中心に、これまでの総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、これまで学習した内容も含め総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	臨床歯科医学の総まとめ①
2	臨床歯科医学の総まとめ②
3	臨床歯科医学の総まとめ③
4	臨床歯科医学の総まとめ④
5	臨床歯科医学の総まとめ⑤
6	臨床歯科医学の総まとめ⑥
7	臨床歯科医学の総まとめ⑦
8	臨床歯科医学の総まとめ⑧
9	臨床歯科医学の総まとめ⑨
10	臨床歯科医学の総まとめ⑩
11	定期試験
12	定期試験の解答と解説
13	臨床歯科医学の総まとめ⑪
14	臨床歯科医学の総まとめ⑫
15	臨床歯科医学の総まとめ⑬
16	臨床歯科医学の総まとめ⑭

科 目	総合学習V	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	
		時間数	30
		履修年次	3学年
		実施学期	3学期
教員名	三上 ゆう子／守谷 友二朗／大野 宏樹 歯科衛生学科教員	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
	「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
	「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
	授業プリントを適宜配布する。
	定期試験で評価する。
留意事項	安易な遅刻・欠席はしないこと。時間割表および教員からの伝達事項を良く確認し、講義内容に即した教本を必ず持参すること。忘れ物は自分だけでなく、周りの学生にも迷惑がかかることを良く自覚すること。

科目の目標	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進について、保健・医療・福祉の関連法規ならびに人体の構造と機能（病理学・薬理学・解剖学・生理学等）を中心に、これまでの総復習を行う。
授業概要	演習問題を適宜実施し、これまで学習した内容も含め総復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ①
2	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ②
3	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ③
4	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ④
5	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑤
6	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑥
7	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑦
8	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑧
9	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑨
10	定期試験
11	定期試験の解答と解説

1 2	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑩
1 3	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑪
1 4	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑫
1 5	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑬
1 6	歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進の総まとめ⑭